

2015年度 工学部経営工学科 教育課程表(2014年度入学者から適用)

(学年は標準年次を示す)

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業要件 単位数	
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター											
		授業科目	単位	担任者	授業科目	単位	担任者	授業科目	単位	担任者	授業科目	単位	担任者	授業科目	単位	担任者	授業科目	単位	担任者	授業科目	単位	担任者					
基礎科目	必修科目	幾何学I 物理学概説	○4 ○4	何森 林田	情報処理演習I △幾何学I △物理学概説	○1 ○4 ○4	有働 山崎(敬) 清水	物理学実験A	○2	清水 小谷	△物理学実験A	○2	有働 相澤 小谷 小林												11	23 単位 以上	
	(基礎) 選択必修	微分積分学入門	×4	永野	微分積分学I 物理学A △微分積分学入門	×4 ×2 ×4	矢島 西野 鈴木(友)	微分積分学II 物理学B △微分積分学I △物理学A	×4 ×2 ×4 ×2	永野 相澤 永野 相澤	微分積分学III △微分積分学II △物理学B	×4 ×4 ×2	永野 鈴木(友) 相澤	△微分積分学III	×4										12		
	選択科目				幾何学II	4	小林	応用数学I △幾何学II	2 4	平田 村田	応用数学II 化学実験A	2 2	平田 岩倉 石田	基礎化学I	2	亀山 岩倉	基礎化学II	2	亀山 岩倉								
必修科目		情報システム演習	○1	中島 高野倉 佐藤	経営工学総論	○2	松井	生産管理 経営管理 基礎製図 プログラミング演習	○2 ○2 ○1 ○1	松浦 松丸 細川 窪谷 高野倉	品質管理 確率統計学 制御プログラミング演習 技術者倫理	○2 ○2 ○1 ○2	中島 窪谷 高野倉 久保	実験実習I 経営工学演習I ロボット工作基礎	○1 ○1 ○1		実験実習II 経営工学演習II 生産システム工学演習	○1 ○1 ○1		卒業研究I	○4	卒業研究II	○4		30		
	(専門) 選択必修						生産マネジメント 工業中国語初級I	×2 ×2	松浦 杉本	技術マネジメント 工業中国語初級II	×2 ×2	金子 杉本	事例研究 国際コミュニケーション	×2 ×2		国際経営管理	×2								6 以上 単位		
専攻科目	A群 (経営管理系)						システム設計論 原価管理	2 2	松浦 松丸	技術マネジメント	2	金子	経済性工学 サービスマネジメント マーケティング	2 2 2		経営情報システム 会計情報処理	2 2		知的財産権	2					8 単位 以上		
	B群 (生産システム工学系)						生産システム工学I オペレーションズリサーチI	2 2	中島 松井	生産システム工学II オペレーションズリサーチII	2 2	松井 窪谷	サプライチェーンマネジメントI 統計の品質管理	2 2		サプライチェーンマネジメントII 品質工学	2 2		システムシミュレーション	2				10 単位 以上			
	C群 (人間・環境系)						人間工学I	2	森	人間工学II 意思決定論	2 2	森 松浦	環境マネジメントI 多変量解析 ヒューマンインタフェース	2 2 2		環境マネジメントII 労働安全衛生 ユーザビリティ工学	2 2 2		知識工学	2				8 単位 以上			
	D群 (知識ものづくり)						自動化要素技術 情報工学 エレクトロニクス工学	2 2 2	熊谷 窪谷 野村				計測工学 CAD	2 2		先端製品製作技術 信頼性解析 知識のつくり技術演習 機械工作法	2 2 1 2							6 単位 以上			
関連科目				情報と倫理 情報と職業 工業概論	2 2 2	前田 古川 *1	微分方程式I 職業指導I(工業)	2 2	山崎 大町 小嶋	微分方程式II 代数学概論 職業指導II(工業)	2 2 2	山崎 大町 伊東 小嶋	代数学I 関数論I 量子物理学I 統計物理学I	2 2 2 2	東川 勝野 勝野 儀我 西野 客野	代数学II 関数論II 量子物理学II 統計物理学II	2 2 2 2	東川 勝野 勝野 儀我 野村 矢崎	会社法概説I 労働法I	2 2	板垣 坂本	会社法概説II	2	板垣			

*1: 中西, 伊藤, 原村, 三谷, 窪谷, 内田, 島崎, 中井, 鎌田

【備考】

1 ○印は必修科目、×印は選択必修科目、△印は再履修授業科目を示す。

【履修要件】

- 1 上位年次の授業科目は履修できない。ただし、基礎科目、関連科目について2年次からこの制限を設けない。
- 2 1年間に履修できる単位数は、48単位を上限とし、かつ各セメスターに履修できる上限は26単位とする。ただし、第二外国語、選択英語、および卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目については、この制限を適用しない。
- 3 他学部他学科開講の授業科目を履修する場合は、受講者数に制限がある。経営工学科のクラス担任者と授業科目の担任者の許可が必要である。
- 4 受講するクラスが指定されている授業科目は、授業時間割表の指示に従って受講すること。
- 5 「経営工学演習Ⅰ・Ⅱ」及び「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」については、それぞれの先行科目(ローマ数字の値が小さい科目)の単位を修得している場合に限って、後続科目の履修を許可する。

【進級要件】

卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数は総単位数に含めない。また、英語(必修科目)以外の外国語科目については、同一言語同一名称の科目をⅠ・Ⅱのペアで修得していることを条件に総単位数に算入できることとする。

(1年次から2年次)

1 1年次終了までに、「FYS」の単位を含め、専攻科目のうちの基礎科目、必修科目及び外国語科目から15単位以上を修得していなければならない。

(2年次から3年次)

2 2年次終了までに、総単位数で62単位以上を修得していなければならない。

(3年次から4年次)

3 3年次終了までに、「経営工学演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を含め、総単位数で98単位以上を修得していなければならない。

【学外単位認定制度】

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件単位数に算入することができる。なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限単位数に含める。

- 1 本学が主催、または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 2 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所定の手続きにより認定された単位。
- 3 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で、本学の授業科目として認定された単位。

【卒業要件】

1 4年以上在学し、学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目 入学年度	共通教養科目											専攻科目							専攻科目合計	合計				
	共通基盤科目						共通テーマ科目					基礎科目			選択科目						関連科目			
	F	外	人	社	自	人	グ	社	科	生	公	必	選	選	必	選	選	選				選	選	選
2014年度以降入学	2	8	4	4	4		2					32	11	12		30	6	8	10	8	6		92	124
			8															1						

- 2 共通教養科目については「FYS」2単位、外国語科目8単位、人文の分野、社会の分野、自然の分野から各4単位、共通テーマ科目から2単位修得しなければならない。そのほかに4分野及び共通テーマ科目から8単位以上修得し、計32単位以上修得しなければならない。なお、人間形成の分野「スポーツ文化Ⅰ～Ⅲ」は、2単位まで卒業要件単位数に算入することができる。
- 3 外国語科目については、必修科目として「工業英語Ⅰ～Ⅳ」を含め、英語を8単位修得しなければならない。
- 4 選択科目から次の単位を含めて33単位以上修得しなければならない。
 - (1) A群(経営管理系)から8単位以上。
 - (2) B群(生産システム工学系)から10単位以上。
 - (3) C群(人間・環境系)から8単位以上。
 - (4) D群(知識ものづくり系)から6単位以上。
 - (5) 上記(1)～(4)の他に選択科目から1単位以上。
- 5 専攻基礎科目で、「卒業要件単位数」を超える単位は、関連科目の単位に換算できる。
- 6 専攻選択必修科目(専門)で、「卒業要件単位数」を超える単位は、専攻科目選択科目A群(経営管理系)の単位に換算できる。
- 7 他学部、他学科開講の専攻科目及び同一言語同一名称の科目をⅠ・Ⅱのペアで修得した外国語科目(必修以外)は関連科目に換算できる。
- 8 関連科目は上記5、7の単位を含めて、1単位までを、上記4(5)の選択科目に換算できる。
- 9 資格教育課程に関する科目の単位は、卒業要件単位数に含めない。
- 10 総合工学プログラムから経営工学科に所属された学生は、総合工学プログラムの卒業要件に従って履修した専攻科目の修得単位を経営工学科の専攻科目に置き換えることができる。

教育課程における標準年次の区切線について

- ① 標準年次が実線(——)で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- ② 標準年次が破線(-----)で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できますが、[履修要件]等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。